

行って来ました！‘わんりい’企画・陝北の旅・報告その-Ⅱ

橋 詰 滋

★3日目(9月24日)

朝はあいにくの雨。昨日までの暑さとうって変わって、この日はかなり肌寒い。風邪を引かなければいいのだが。

この日は中秋の名月だというのに、なんていうことか。夜には晴れるようお願いばかり。

柳田氏より、部屋のシャワーがチョロチョロしか出ずに、前の晩はシャワーを思う存分浴びることができなかったとの話がありました。柳田氏の隣の部屋に宿泊していた私の部屋は、逆にシャワーの出が大変良かったのですが、もしかしたら私がシャワーを使用していたから、隣の部屋の出が悪かったのではないのかと今でも考えてしまいます。この日以降、宿泊するホテルでは、誰かの部屋で必ずトラブルが発生することになります。

朝食は、バイキング形式でありましたが、何か、もの足りない感じがしました。何かと言いますと、飲み物が無いのです。コーヒー、牛乳、ジュース、お茶の類がなく、申し訳ない程度にお粥があるのみで、喉を潤した気にはなりませんでした。

8時半に近くの宝塔に向けて徒歩で出発し、10分ほどで到着しました。途中、マンホールの蓋が少し開いている箇所があり、柳田氏が穴の中に落ちてしまうのではないのかという危機もありましたが、氏の運動神経が良いのか分かりませんが、

寸前のところで落下を回避することができました。経済発展が著しい中国であります、街中では、上のようにマンホールの蓋が開けっ放しであったり、交通整理中の警官がスマホでゲームをしていたり、日本では考えられない光景を見ることが出来ます。

宝塔の入場料は、例のごとく、ご年配の方は無料であり、私のみ60元を支払いました。カートで宝塔がある頂上まで登り、時間があまりなかったため、宝塔の中に入らず、宝塔を下から眺めるだけでした。

ちょうど、この日は、中国国内の少数民族関係のイベントが近くであったようで、様々な少数民族の団体が観光に来ていました。特に、雲南省の彝族の女子の顔立ちと民族衣装が綺麗であったため、記念写真の撮影に人だかりが出来て、我々も記念に撮らせてもらいました。左下に掲載してあるのがその写真です。中国の観光地では、よく少数民族の方と記念写真を撮ると、有料であることが多いが、彼女らは記念撮影に無料で応じてくれて、本当にありがたかったです。

我々は宝塔見学を終え、ホテルに戻り、そこからバスで5分くらいのところにある延安革命記念館に移動しました。中国共産党の設立、八路軍等に関する文物を展示している博物館であり、敷地



彝族の女性と記念撮影



毛沢東のベッドルーム



千年古窟の前で案内人の男性と記念撮影



黄氏、趙氏を囲んでの夕食会

内には毛沢東や周恩来等の中国共産党の指導者らの旧居もありました。

毛沢東の旧居の部屋のベッドがダブルベッドであったことに対して、浪花氏と私だけが気になりました。気にしすぎですかね。

革命博物館で2時間くらいを費やし、近くの食堂で昼食をとった後、バスに揺られ、2時間かけて、今回の旅行のメインテーマである乾坤湾に向かいました。道中、黄さんの漢詩講座がありましたが、その後、食後のため、みなさんは夢の中に入ってしまった。運転手の趙氏(前回の記事では「張氏」と誤って記載)には、お仕事とは言え、ただ一人だけ運転をさせて、本当に申し訳ありませんでした。趙氏の運転は、非常に丁寧であり、高速道路上のトンネルの無いところは100kmを維持し、トンネル内では80kmまで減速して、安全運転に心がけていました。

14時半に我々は乾坤湾黄河博物館に到着しました。乾坤湾とは、黄河が大きくUの字型に蛇行する場所です。乾坤湾黄河博物館にて、黄河の地理、乾坤湾の蛇行の形成過程等について見物しました。

1時間ばかりの見物の後、この日の宿に移動しました。一般の車は、博物館から先の乾坤湾景区に入ることができないため、専用のバスに乗り換えて、宿まで移動しました。

宿に到着後、今朝の柳田氏のシャワーのトラブルの話の思い出し、早速、自室のシャワーのチェックをしたところ、今度は、自室のシャワー

の出がチョロチョロでしか出ていませんでした。他の方の部屋はそのようなことはなく、自分だけトラブルに当たったみたいでした。フロントでトラブルの内容を伝えたところ、急遽修理をするということであったため、安心しました(後でシャワーの出が良くなったことを確認しました)。

少しの休憩後、町を散策しましたが、宿の前に1軒の商店と千年古窟(1000年以上前のヤオトン)があるのみで、何も無い寂しい町でありました。千年古窟に近づいたとき、どこからともなく、その持ち主の男性が現れ、頼んでいないのに、彼が案内をはじめました。当初、入場料の表記がないため無料かと思っていましたが、後から、一人10元(当初の言い値は50元だったらしい)の案内料を請求されました。更に外国人の訪問が珍しかったのか、日本の硬貨も欲しかったため、私は10円玉を柳田さんは50円玉を彼にプレゼントしました。

この日の夕食は、宿内の食堂で黄氏、趙氏を交えてとりました。この日は中秋の名月を祝して賑やかに行いましたが、結局、夜まで雨が上がることはなく、肝心の名月は雲隠れしてしまい、鑑賞することはできませんでした。テレビのニュース番組で流れていた名月の映像で我慢するしかありませんでした。この食事会の中で、自分よりも若いと思っていた趙氏(当初、30代かと思っていました)が、実は自分よりも9歳も年上の52歳であり、お孫さんがいることに驚かされました。いつまでも若々しいのはいいことです。



雨の乾坤湾



会峰寨

★4日目(9月26日)

この日も朝から雨。前日より更に寒く、10℃を切っていたと思います。天気予報では、この日の最高気温は13℃とのこと。あまりの寒さに、冬山登山用のジャンパーを着ることになりました。当初予定していた羊皮の浮き袋のボートによる黄河の渡河は中止となりました。

起床後、朝食をとりましたが、昨日の延安でのホテルの朝食同様、飲み物がなく、申し訳ない程度にお粥があるのみでした。

食後、ホテルを8時15分頃に出発し、まず、我々は黄河の蛇行が絶景と言われている乾坤湾に向かいました。

乾坤湾では、雨で足元が悪かったため、転倒しないよう、足元を気にしながら見学をしました。雨で、あまりよく見ることができませんでしたが。晴れたら絶景だっただろうと思います。

続いて、清水湾へ移動し、まるで水墨画を描いたような黄河の絶景？、または東洋のマチュピチュと言われる絶景？を楽しみました。(東洋のマチュピチュ？または中国の竹田城(勝手に命名)？と言われる岩山であります。撮影地から山の頂上に行って帰ってくるまで、2時間くらいかかるため、今回は諦めました。)

黄河を初めて自分の目で見ましたが、川幅が1キロ以上あり、まるで下流の川幅であるように感じました。実はここは河口から2000キロ以上の上流にあることを知り、その大きさに驚かされました。

2時間くらい黄河の風景を楽しんだのち、周遊バスでホテルに戻り、荷物を回収し、再度周遊バスに乗り込んで、前日の乗り換え地点まで移動しました。

乗り換え地点で昼食をとり、この日の最終目的地である文安駅に移動しました。

昼食後であったため、例のごとく、趙氏以外は夢の中に入ってしまう、1時間半後くらいに文安駅の高速度道路のインターチェンジに到着しました。

文安駅に行く前に、少し時間がありましたので、国家主席の習近平が青年時代に下放された梁家河村に立ち寄りしました。梁家河村に入るために、空港に置いてあるようなX線の手荷物検査機に手荷物を通してからでないと、入村することができませんでした。手荷物検査後、専用のバスに乗り換えて梁家河村に向かいましたが、そのバスの運転手の運転が雨にも関わらず速く、前の車を煽っているような走りであったため、思わず黄氏が「速すぎる」と専用バスの運転手に対し注意をしました。

我々は、この後に思いがけないトラブルに巻き込まれることなんて知らずに、呑気にこの乱暴なバスに揺られながら梁家河村に向かうのでありました。紙面の関係で今回はここまでとさせていただきます。

今回掲載の写真は全て浪花氏からのご提供によるものであります。ありがとうございました。

(続く)